



避難所運営訓練に参加しました

12月8日（日）津橋南地区防災連絡協議会主催の避難所運営訓練が実施されました。

紀伊半島沖を震源とした大規模地震の発生や、海岸地域への津波の襲来、ライフラインの損傷、家屋の倒壊、避難所である南が丘小・中学校、南が丘会館へ南が丘地域内外からの多数の避難者を想定し、南が丘小学校を会場に、訓練が行われました。

中学校からも、バドミントン部、サッカー部、剣道部、野球部あわせて60名あまりの生徒と教員が参加し、総務班をはじめ情報・広報班、食料班、物資班、救護班など9つの班に分かれて、避難所の運営を体験しました。

避難者の受付や非常食の準備、避難者用の物資の搬入、仮設トイレの設置、ボランティアの受付や募集など、班ごとに体験をさせていただきました。実際の災害発生時には訓練とは比べものにならないほど多くの避難者が想定され、今後さらに改善を加えながら継続して訓練を実施していくことで、備えとしていきたいと思います。



小中合同の人権集会を開催しました

12月10日（火）本年度は、「地域人権啓発推進事業」を活用し地域とともに子どもたちを取り巻く様々な人権課題の解決を図るため、これまで小中学校が合同で開催してきた人権集会を、南が丘学校支援委員会との共催で開催しました。当日は、運営スタッフが、「人と人とのつながりを深めよう」という文字と「MHR（南が丘ヒューマンライツ）」をデザインした黄色いスタッフジャンパーを着て運営にあたりました。ご協力いただいた保護者、地域の皆様、ご参加いただいた皆様ありがとうございました。



集会では最初に、中学校の人権サークルMHRによる人権劇「ネットと人権」を上演しました。ネットの中での仲間はずしや誹謗中傷をテーマに、MHRのメンバーが台本を作成し、改めて自分たちの生活を振り返り、ネットとの付き合い方などについて考える機会となりました。劇の後には、「ネットで絶対に悪口は書いてはいけなかったと思います。」などたくさんの意見が出されました。

その後、夏休み前に募集した人権に関わるポスターや標語の優秀作品の表彰を行いました。中学校からはポスター4点と標語3点が選ばれました。



そして、最後に料理研究家であるコウケンテツさんをお招きし、「食を通じて 人が、世界がつながる」というテーマでご講演をいただきました。世界各国を旅し、様々な国の人や食文化との出会いを通して、互いの違いを認めること、違いを尊重することの大切さについて語っていただきました。また、何を食べるかよりも誰とどのように食べるかが重要であることや、世界的にも



豊かな食文化を持つ日本で、男女間の格差が大きく（調査対象 149 カ国中 110 位）、共働きの世帯であっても女性に家事労働が集中している現実や、子どもであってもいろいろな家事を分担できること、また、料理を作ることが脳の成長につながることも教えていただきました。講演会後にはたくさんの質問の手が上がり、「こんなにたくさんの質問が出るなんて、すごいですね。」と、驚かれていました。

なお、今回、表彰された人権ポスターと標語は、ポケットティッシュの広告として印刷し、集会にお越しいただいたみなさんへ配付しました。また、3 学期には、MHR の子どもたちが地域内の施設を訪問し、人権問題の啓発物品として配布いただくようお願いに伺う予定です。

生き方を考える



福岡市の NGO「ペシャワール会」の現地代表として、アフガニスタンで長年、人道支援と復興に携わってきた医師の中村哲さん（73）が 12 月 4 日、東部ナンガルハル州ジャララバードを車で移動中に、何者かに銃撃され死亡しました。

R1. 12. 6（金）中日新聞より

中日春秋
掘っていた井戸で事故が起きた。地元のアフガニスタン人作業員が死亡している。非政府組織代表の中村哲さんが作業員の村を訪ねると、高齢の父親は悲しみを押し殺して言ったという▼「こんなところに自ら入って助けてくれる外国人はいませんでした。息子はあなたちと共に働き、村を救う仕事で死んだのですから、本望です…泉が涸れて、小川の水も尽きたとき…あなたが現れたのです」（著書『医者井戸を掘る』）▼生きる希望が尽きそうになつていた人たちの前に現れ、三十年以上の長きにわたって共に汗を流してきた。遠い国で本望という言葉を使つて感謝の言葉を贈られる日本人は多くないだろう。アフガニスタンでも、中村さんの突然の死に悲しみが広がっている▼「生きるとは旅である」と書いている。昆虫が好きで山を愛した。登山隊に参加したのが、かの地との出会ひだった。数年後、医師として難民救援などにかかわることになる。やがて活動を「天命」と知ったという▼作家火野葦平は伯父・葦平が『花と龍』で主人公にした玉井金五郎は祖父にあたる。四国から流れて来た福岡・若松で零細な港湾労働者たちのために、命をはったと伝えられる人物だ。生き方は重なる▼凶弾で旅は突然終わった。治安が悪化しても人々を見捨てず、見下すこともなかった。その生き方は忘れることができない。

2019.12.6

「ペシャワール会」は、中村さんのパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成された国際 NGO 団体です。

中村さんは「アフガニスタンでは、温暖化の影響で農地が乾燥し、年々失われ、食料が少なくなり、深刻な事態になっている。私は医療関係者だが、薬だけでは人々の健康は守れない。清潔な水、それから十分な食べ物を確保するために、かんがい事業が欠かせない」として、「100 の診療所より 1 本の用水路を」と訴え、現地の住民とともに、農業事業、灌漑事業などに取り組んできました。

また、中村さんは、アフガニスタンへのメッセージとして、「アフガニスタンは 40 年間ずっと戦争が続いているが、今は戦争をしている暇はないと思う。敵も味方も一緒になつて国土を回復する時期にある」と述べ、アフガニスタンの国民が力を合わせて復興に取り組むべきだとも訴えていました。

中村さんの生き方は「何のために生まれて、何をして生きるのか」この問いへの一つの答えを示しているように思います。中村さんのご冥福をお祈りします。

12・1月の主な行事予定です

- 12月18日（水）～20日（金）保護者懇談会（給食は19日で終了）
- 23日（月）終業式
- 1月8日（水）始業式
- 9日（木）実力テスト、給食開始
- 15日（水）～17日（金）3年中間テスト
- 22日（水）校内研究授業（1年のみ6限授業）
- 23日（木）2年みえスタディチェック（国・数）
- 25日（土）～26日（日）書写展（リージョンブラザ）



皆さんにとって今年はどんな年だったでしょうか。お子さんと一緒に1年間を振り返り、我が家の今年の漢字を考えてみるのも楽しいのではないのでしょうか。